



愛する郷土「うきは」を  
夢と希望に満ちたまちへ



新年明けまして  
おめでとうございます  
うきは市長 高木典雄



新年明けましておめでとうござい  
ます。市民の皆様におかれましては、  
健やかに輝かしい希望に満ちた新年  
を迎えられたことと、心からお慶び申  
し上げます。また平素より、市政に対  
し深いご理解とご支援、ご協力を賜っ  
ておりますことに対し、年頭にあたり  
厚くお礼申し上げます。

新年を迎え、愛する郷土うきはを未  
来の市民に誇りをもって引き継ぐこ  
とができるよう、決意を新たにしてい  
るところであります。

### ● 昨年を振り返って

昨年は、7月5日に九州北部豪雨災  
害が発生し、隣接する朝倉市、東峰村  
及び日田市を中心に甚大な被害があ  
りました。未だ行方不明の方もおられ  
る状況であり、犠牲となられた方々の  
ご冥福をお祈りしますとともに、被災  
された皆様に心からお見舞い申し上  
げます。うきは市としましては、被災  
地に一番近い自治体として「できる支  
援はすべてやる」という気持ちのもと、  
市民の皆様や各種団体の「ご協力で  
様々な支援を行って参りました。住民  
の平穏な生活をおびやかすという点  
では、災害に対する常日頃の備えが大  
切であることを痛感させられた次第  
であります。今後とも防災をはじめ危  
機管理体制については、万全を期して  
参ります。

企業誘致の取組みについてですが、  
うきは市と久留米市にかけて約33ヘ  
クタールの工業用地整備事業につい  
ては、事業主体であります福岡県企業  
局が5月に造成工事に着手し、順調に  
推進しているところです。また8月に  
は大分市に本社を構え、医療・介護給  
食等の食品製造加工販売を行う森永  
食研株式会社と三春工業団地への立  
地協定調印式を行いました。最新鋭の  
設備を有する新たな製造拠点として、  
うきは市に新工場を建設する予定で  
す。これらの工業団地が、特に若い人  
たちの新たな雇用の創出につながり、  
地方創生を進める上での大きな起爆  
剤として期待しているところであり  
ます。

を、今後大いにPRして参りたいと思  
っております。

福岡県が建設中の主要地方道八女  
香春線「合瀬耳納工区トンネル工事」  
については、3月に貫通式が行われま  
した。現在トンネル内の舗装・設備の  
工事等が進められており、来年度には  
開通が予定されているところであり  
ます。また県営藤波ダムの維持放流水  
を活用した再生可能エネルギーの導  
入として、うきは市が設置した「うき  
は藤波発電所」が3月から発電を開始  
しました。完成の式典を行うとともに、  
施設の見学会などを行いました。環境  
にやさしい再生可能エネルギーの導  
入により、自然豊かなうきは市の環境  
保全や地域資源の有効活用取組み

各自治協議会が発足し5年目を迎  
えます。各自治協議会で積極的な取組  
みがなされています。活動等を行うコ  
ミュニティセンターは、地域の皆さん  
の日常生活に根ざした学習や健康の  
増進を図る場、そしてこれらの活動を  
通して、人々が交流するコミュニケー  
ションの場であり、地域の拠点や地域  
活性化の場となり、地域おこしの場  
でもあります。福富コミュニティセン  
ターが3月に完成し、御幸コミュニテ  
ィセンターは4月から旧男女共同参画  
センターに移転を行いました。これか  
ら皆様の新たな地域の拠点として創  
り上げていただきたいと思っております。

昨年は、知力をもって技術や文化を  
生み出したうきはの偉人の節目の年  
でもありました。はじめに江戸時代に  
私財を投じ、筑後川の瀬瀬から岸壁を  
掘り進め水を引くという偉業を成し  
遂げた大庄屋田代重栄氏の没後33  
0年であり、重栄氏の偉業を伝えるD  
VDとパンフレットが完成いたしま  
した。次に、日本初といわれる農民劇  
団「嫩葉会」を立ち上げた、山春村出  
身の医師、安元知之氏の没後90年の年  
でもありました。そして福益村出身で  
20世紀の世界の報道人百人にも選ば

20世紀の世界の報道人百人にも選ば

れた菊竹六誠氏の没後80年でもありません。「信念の言論人」と呼ばれた六誠氏の事績や人となりに触れることで、歴史を学ぶとともに、歴史に学ぶことの重要性を感じることができました。

久留米市・大川市・小郡市・大刀洗町・大木町とともに4市2町で構成する、久留米広域連携中枢都市圏のアンテナショップ「福岡久留米館」が新橋に7月オープンしました。圏域の知名度を上げ、交流人口・移住人口の増加と特産品の販路拡大が期待される中、うきは市におきましても「フルーツ王国うきは」の名を首都圏にPRする絶好の場と捉えております。

地方創生の取組みの一環として、地方創生拠点整備交付金を用いて、調音の滝公園などの整備も進めています。またオランダ王国の政府機関と連携し、文化芸術交流事業「うきはアーティスト・イン・レジデンス」も行ったところがあります。

最後に道の駅うきはについてですが、『九州じゃらん7月号』の九州・山口の「道の駅ランキング2017」において、道の駅うきはが2年連続の第1位となりました。また道の駅うきはに隣接する、嫩葉会が中心となって造ったギリシヤ式野外円形劇場を発掘し、再生整備を行い12月に完成しました。今後の活用を図るとともに道の

駅を訪れる方の観光施設としても活用したいと思えます。さらには、道の駅が地域の方々の避難場所、被災地の復旧活動における支援拠点、災害情報の提供拠点になるなど、熊本地震などの災害時に大きな機能を発揮したことにより、重点「道の駅」に選定されている道の駅うきはにおいて、国土交通省が防災広場の整備などを行い、11月に完成したところであります。

## ● 新年を迎えて

平成30年を迎え、官民協力や地域間連携を積極的に図りながら、主要計画及び政策等を基軸として市政運営を行って参ります。その一方で、縮小していく社会に対応すべく、現在実施している事業の見直しを行い、効果の薄いものについてはそのあり方を再考すべき時でもあります。大きな時代の流れを的確に捉え、官民協力や地域間連携を積極的に図りながら、身の丈にあった「うきは市」の行財政運営を確実に実行していかなければなりません。また昨年に引き続き、特に「うきは市ルネッサンス戦略」と「第2次うきは市総合計画」、そして「うきは市教育大綱」の3つの計画を市政の柱として事業推進に取り組むとともに、将来のうきは市像の具現化に向けて着実に進めて参ります。

生涯学習センターとムラおこしセ

ンターの老朽化に伴い、二つの機能を備えた複合施設の建設については、現在設計を進めているところでありますが、平成30年度には工事を着手し、完成を予定しています。また昭和47年に開校した姫治小学校を、小学校新学習指導要領の全面实施などを踏まえて3月末で閉校とし、御幸小学校と統合いたします。

そして今年には明治改元が布告された、明治元（1868）年から起算して、満150年の年に当たります。明治以降、日本は近代化の歩みを進め、国の基本的な形を築き上げました。明治期においては、若者や女性が、外国人から学んだ知識を活かし、新たな道を切り拓き、日本の良さや伝統を活かした技術・文化を生み出しました。うきは市では、明治元年に小塩村に生まれ、福井県知事や名古屋市長等の要職を歴任した佐藤孝三郎氏や、その子息で明治37年生まれ、法制官僚で日本国憲法の政府原案を作り上げた佐藤達夫氏がおられます。また英文学者で、大学生（東京大学）時代は芥川龍之介氏と首席を争い、九州大学英文学初代教授や青山学院大学長などを務めた豊田實氏など明治期に活躍した偉人がたくさんおられます。地方創生といわれる中、明治期の人々のチャレンジ精神を知る機会を設け、これからうきは市を担う若い人たちに伝承してい

くことが重要です。そしてその精神を地域力の向上へ活かすことが必要だと考えております。

従来の「縦割り」の取り組みを排し、様々な分野における官民協力や地域間連携、政策間連携を図り、「地域の総合力」を最大限に発揮することで、将来の「うきは市」を見据えた地方創生策を推進して参ります。行政への需要が広範かつ多様化していく中、全国的な人口減少、少子・高齢化などの主要な課題に対応したまちづくりが重要であり、生活環境や地域力の向上を図ることにより、いつまでも住み続けたいまちづくりを推進し、多くの人に愛される郷土を目指します。

うきはの地にある素晴らしい自然環境や人々のつながり、これまで先人が築いてきた地域の伝統、文化など価値ある貴重な資源や財産の特性にさらに磨きをかけ、地域の一体的な発展を目指し、新しいうきは市をつくり上げて参りたいと思えます。誰もが健康で心豊かな生活が送れ、次代を担う子供たちのために、夢と希望に満ちたうきは市のまちづくりを市民の皆様とともに進めて参りますので、市民の皆様には一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとつて幸多き素晴らしい年となりますことを心より祈念いたしまして、新年の挨拶いたします。